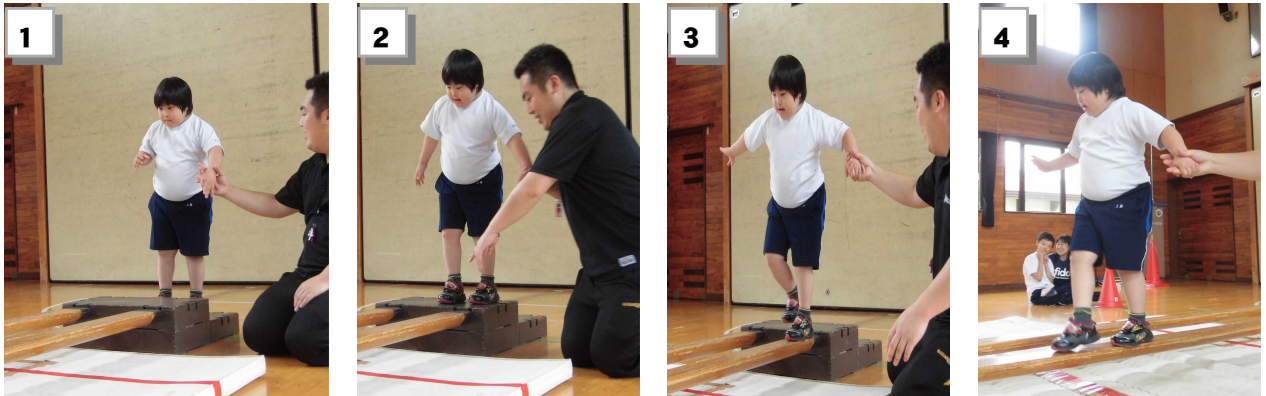




「はじめての平均台」～勇気と信頼できる人が必要～



- 4月に小学部に入学したS君が、体育の授業で初めて平均台に挑戦しました。S君は勇気を出して渡るべきか、それとも怖いからやめようか、平均台に向かって一歩進んでは二歩下がる闘いを1分間以上も続けました。やがて周りの友達からS君を応援する掛け声と手拍子が起こりました。私は無理だろうと思ったそのときでした、遂にS君は平均台の前に立ちました。
- **1**の写真は、挑戦しようと思ったことをちょっぴり後悔しています。**2**の写真は、平均台の前で再び究極の選択に苦しんでいます。**3**の写真は、先生の温かい手に支えてもらいながら、大きな一歩を踏み出した瞬間です。**4**の写真は、少し腰が引けていますが、自分で体のバランスを保ちながら、一步一步ゴールを目指して歩いています。はじめての平均台との闘いを終えて汗びっしょりのS君は、満面の笑みを浮かべてみんなとハイタッチをして喜びを分かち合いました。困難があるからこそたどり着ける道があることを身をもって体験したS君でした。
- 離乳の開始は、生後5～6か月頃から1年かけて行います。一さじの飲み込みからスタートして、モグモグ期、カミカミ期へと移行します。赤ちゃんがはじめて離乳食をゴックンするためには、大きな勇気とそばに信頼できる人が必要です。S君がはじめての平均台に挑戦できたのも、大きな勇気と信頼できる友達や先生がいたからだと思います。子どもは困ったときやうれしいときに、自分を見守ってくれている人の視線を期待して必ず振り返ります。子どものやっている姿を見て、感じて温かい言葉を掛けたり、時には手を差し伸べたりすることで、子どもは安心感を得て、さらに外の世界へ飛び出すことができます。私たちは子どもを恐怖や不安から守る「安全基地」の機能を果たさなければなりません。

「S君、汗をかいて培ったものは失われません。あなたの勇気に👏！」

かづの校 副校長 加賀谷 勝

